

白鳥病とは？

山本 和治

〒 399-8301 長野県安曇野市穂高有明 2695-1

1. 症 状

- ①朝に弱い夜型の人も早起きになり、行動がストーカーに似てくる。
- ②カメラと機材に詳しくなるとともに経済的に困窮することがある。
- ③他の病気と異なり、比較的同じ病気の人と親しくなる。
- ④いわゆるバードウォッチャーとは症状を異にする。
- ⑤この病気になると極端に元気になる人が出てくる。
- ⑥人によっては、対象の生態や行動がやたら気になり、知識や情報を求めるようになる。

2. 原 因 姿・行動など対象の全てである。

3. 治療方法 現在のところ完璧な治療法は無いが、多くは対象が周辺に居なくなると自然治癒する。

しかし、シーズンが来ると再発する。重症かどうかは人によって様々である。

通年となってしまった コハクチョウの撮影

私がコハクチョウに興味を覚え、その撮影にのめり込みはじめてから 2 シーズン。だが、怪我をしたと思われる彼？や彼女？がシベリアへの北帰行が出来ずに残ったため、私にとって明確なシーズンは無くなり、通年にわたって彼らを撮影し続けることになっている。コハクチョウに魅せられる理由を問われても答えは見つからない。鳥に限らず他にも沢山の魅力ある景色や人工物などがある。それなのに撮影の最優先はコハ



クチョウである。そしてその対象は自然の中で生きているコハクチョウのみ。

以前から保護されている北穂高の福ちゃんやピーちゃん、アルプス公園のコハクには自然の中で必死に生きている姿を見ることが出来ないので残念ながら撮影対象には出来ない。

しかし、残っているコハク達には、次のシーズンまで暑さと洪水を乗り切り、元気に仲間をえてほしいと願う。